

——エネルギー政策がご専門ということですが、具体的にはどんなお仕事なのでですか。

おもに米国のエネルギー政策、アジアのエネルギー安全保障問題、世界の天然ガスや原子力政策・市場の動向などを研究している。ここ最近は、米中貿易戦争のエネルギー分野への影響や、東南アジアのエネルギー事情、地政学的な視点からサハジア・ビルギやロシアのなどのエネルギー事情とそれに対する米国のエネルギー政策・外交を見てています。論文やコメントの執筆の傍ら、国内会議に一緒に行つてみならいで、クラスメートと一緒に話されて行つたことがきっかけです。その年、エネルギー省ではロシア語ができる不拡専門家の卵を探して、アジア専門家の卵は募集していませんでした。でも担当者の人から見て、履歴書出してと言われて、そうしたらほんと連絡があり、仕事のオファーをもらいました。ソビエト連邦崩壊後、その拡散してしまってはいけないかと米国政府が最も懸念していた時代でした。同期はキエフやロシア国内へ派遣されていましたが、私の最

——エネルギー省から派遣されたのですね。東京で約1年間仕事をされたのですね？

2001年から在京大使館のエネルギー・アタッシュ特別補佐官として約1年間駐在しました。訪日するエネルギー省高官の懇親会など、日々意見交換などを通じて、会合では英語でやり取りしていたので、日本側の人たちは私が日本語ができることをあまり知らなかつたと思います。2010年といえは、同時に多発テロが起きた直後に多くの人が献血に来てくださり、大使館の門の前が花束で一杯になつた光景がずっと忘れることはあ

「エネルギー省を離れたのはどうしてでしょうか?」おもに中国と日本を比較して、アジア出張や会議に忙しい毎日でした。そのうちに、もつと長期的な視点で考えた結果、政策提案ができないだろう

日本語に関しては父が厳しかったので、家では英語と日本語のどちらも禁ずでした。学校では友達に恵まれ、中学時代はテニスの部活に夢中になり、日本的生活は本当に楽しく充実していました。ただ、生まれも育ちも米国西海岸の日系人の母は、言葉の面でも文化の面でも大変だったようですが、先生の説明がよくわからなかつたり、他のアイランディングティーは米国ですが、日本で育つ者として、米国と日本のいいところを兼ね備えた人でありたいと思



ジョン・カバウ

相違点が多い二つの社会で育つ  
米国と日本のいいところを兼ね備えた人でありたい  
ジエイン・ナカノさん 戦略国際問題研究所シニアフェロー

然体でキャリアを築いてきたナカノさん。ますます後の活躍が楽しみです。

ト近郊に住む両親との、はを忘れずに、そしてワシントン大切にして、間も大切にします。あなたのパラ NS は、なる課題かもしません。年下の女性からアドバイスを求められることが多いですが、女性としてバイブル面の知識は、うちは持っています。アドバイスしています。き方やキヤリア・バスは人それぞれやタイミングに対する考え方やアドバイスします。展開になるのは、とは思っていません。

インタビュー  
**村上博美** むらかみひろみ  
Japan Institute for Social  
Innovation and Entrepreneurship  
(JSIE) 代表。  
日本と米国にてグローバル  
人材育成ワークショップを開催。ワシントンDC経済  
戦略研究所(ESI)や戦略国際問題研究所(CSIS)  
などの研究員を務め、2015年に  
503(c)3非営利団体JSIE  
(www.jsie.net)を創設。米国際経営  
学修士、米国ジョンズ・ホプキンス  
大学高等国際問題研究大学院(SAIS)  
で訪問研究員。



CSISでシンポジウムの司会をするナカノさん